



**第116号**  
 発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会長 堀内文夫  
 編集人 会報編集委員長 西原和幸  
 印刷所 須坂新聞社

# 研究会員 総括 授業の手応えをもとに 論じたい

研究副委員長 宮本 経 祥

▽… 四月以来、各研究委員会は、全体テーマにもとづき、具体的な研…  
 △… 究テーマを設定し、創意にみちた教育実践にとりくんできました。…  
 △… それぞれの委員会では、何を求め、何を明らかにしたのか、研究…  
 △… の問題は何かなど、ここに中間報告をしていただきました。…

## 授業の手応えをもとに 論じたい

ほとんど作文が書けなかつたわんぱくな子が、入院中の友だちへの長い手紙を書き上げた。その途上で、先生に病気の様子をたずね、辞書を使っていたという。書き上げた手紙を持って来て、「先生、見てください。まちがっているところから」と言ったというのである。五年生の国語の時間の話。

この中に、子どもがねばり強く自己形成していくための指導が焦点的に述べられている。つまり、願いを持ち、それを実現させるために、次々と生じる問題を解決していく過程に、ねばり強く自己形成していく姿が発現すると考えよ。この過程では、一人一人が

「土台を打って柱を立てるといのは基礎・基本なんです。どういう土台を打って、どう

### 《提言》

## わかるように教えてくれる 先生に会いたい

池田 悦 次

友だちや先生の力を借りながら、それぞれの問題に合った方法で追求することになる。

現在、須高のかかえている問題について行政サイドで臨教審とか中教審等でさかんに論議されているが、その解決の鍵は、教師ひとりひとりがわからない子どもがいいたら、まず自分の教え方が悪いと考

どうにかかっている。今、生涯教育とか自己教育力ということがさかんに強調されている。自己教育力が重要といわれること自体、自己教育力がつくような教育をしていないからである。教育とは本来自分のために自分が何かを知りたいという欲求があり、この充足のために教師なり

— 教育会だより —

10・27	研究委員会世話係委員長会(第2回)
11・10	第38回日本連合教育会愛媛大会。本会参加者千名。
11・30	第7回代議員会。信教各種研究調査編集委員中間報告(第2回)
8	信教教育懇談会(信濃教育会館)本会参加者7名。
7	第8回研究発表会須坂小学校校視聴覚室)
12・1	信教全県研究大会(長野市城山小・柳町中)本会参加者31名。
15	第7回上高井女教師研究大会(須坂小学校校視聴覚室)
20	秋の講演会
29	第8回研究発表会須坂小学校校視聴覚室)

# 生徒の聲が響く 英語教育をめざして

—英語教育委員会— 北堀 宏

本年度の研究テーマは、昨年度の反省の上に立ち、「主体的に学習に取り組み、表現力を高める学習活動はどうあつたらよいか——聞くこと、話すことを通して」とし、サブタイトルを設け、角度づけをより明確にして研究に取り組んできている。研究内容としては、信濃教育会重点教科研究とも歩調を合わせ、Q—A活動のさせ方、E F（外国人英語指導主事助手）とのチーム・ミーティングの効果的なあり方・聞くこと話すことの評価について、研究授業とその授業分析を通して進めてきている。

第一回研究委員会で、高山中学校の一年生を対象に對話活動を中心にする、次のような授業展開がなされた。

- (1) 動機づけとしてのボディ・ランゲージ（始業前）自分の体、教室内の品物を教師の発する英語を聞いて全員で反応してゆく。
- (2) 生徒から先生に既習の英語を用いて話しかけ、教師はその生徒に応じて応答したり、他の生徒に聞き返しをする。
- (3) 新出文型を絵や既習事項と結びつけて導入し、口頭練習をする。
- (4) 本文のテープを観点を持たせて繰り返し聞き、概要にせまる。
- (5) グループ内で本時の学習を生かして対話練習する。（時間の都合で割愛した。）
- (6) 周囲の先生方と本時の表現を用いて対話する。（アディンプトン先生と話してみたい、という生徒もおり、実際の場面での対話ができた）

などの場面で、できるだけ多くの生徒に「わかって使えた喜び」を味わわせたいと考えた。講師の信大渡辺先生はじめ参会者全員、世話係の西原校長先生から数多くの貴重な御意見、御指導を受けることができました。今後の改善の方向として示唆されたことを中心にまとめ、更に第三回研究委員会の場でも生かしていきたいと考えます。

- (1) ゲーム的な要素を可能な限り取り入れ、聞いて理解し反応する活動を助長する
- (2) Form Centered から Communication Centered 常に新しい情報をつかもうとする意欲を持たせる必要がある。そのために、未習の語句等もわかりやすい形でもっと導入することが大切である。
- (3) 聞いてわからせる、読んではわからせる活動が非常に大切であり、その土台になるのは「聞くこと」である。そして聞かせ方もわかる単語なり文をしつかり理解するように大きくとらえることが大切である。

ささやかな実践ですが、教室に生徒の聲が響く英語教室を願ひ、今後とも自己研鑽に励みたいと思います。（高山中）

# 読書に立ち向かう姿

○図書館の授業から○

—学校図書館研究委員会— 田中尚子

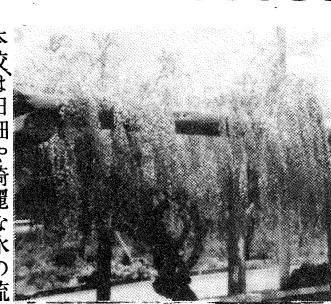
学校図書館研究委員会では「子どもを喜んで読書に立ち向かわせる指導はどうあつたらよいか」を研究テーマにして研究している。今年度からは特に那研究委員会の研究テーマを受けて、自分なりに身近な資料を積極的に活用しようとする児童生徒をめざしてとサブテーマを設けた。三年間の研究方向の一年次という

ことで、自分なりに身近な資料を活用する子どもの姿を、実証授業を行い内容を研究してきた。第一回は、小布施中学校二年五組「わたしのすめる一冊の本」の単元を児玉淳子先生に実践していただき講師の吉沢輔雄先生にご指導を受けた。生徒の実態が場ありの読みひたる姿が見られないことから、友だちにす

められた一冊の本によって互いに共感しあう喜びを通してテーマに迫ろうという授業であった。特にT児の発言は発言の少ない生徒の発言をもう二回の研究会を盛りあげるものともなった。一冊の本という、生徒にとって大切な図書をめぐる、生徒ひとりひとりの本へのかかわり方を討議の柱とした。その中で自分のために書く感想が友だちと共感できる感想へと高まっていったこと、授業中、下を向いていた一生徒の目が輝いていたことを読書に立ち向かう姿としてとらえた。そこでは、読書

# 「泉」の如く

日野小学校



本校は田畑や綺麗な水の流れる小川に囲まれ、遠くには山々が連なり、美しい自然に恵まれた学校です。明治六年に勸義学校として村山村長勝寺に開校し、現在の塩川へは明治四十三年に移転新築され、長い歴史と伝

統のある学校です。校門入り口にある「藤の木」もまた、地域の人々によって移植された。その時以来、五月には一メートル余の美しい花を咲かせ、本校の変遷と共に歩んできたのです。また塩川に湧き出る清水を学校にひき、「泉」とした。そして、地域に根ざした学校目標として「渾々と湧き出づる日野の泉のような清らかな心と希望をもち、たくましく、生き生きとした、かつ創造的に活動する子どもを育てる」と据え、毎日の教育活動が進められています。

の心を育てる具体目標として「三つの心」○思いやる心○うやまう心○がまんする心○の啓発と実践に努力しています。その一例として、今年の運動会には、子どもの働きによる青少年赤十字活動で、敬老者への菓子袋が用意されたことには、実りを感じます。「泉」の水は、池やプールにも利用されますが、四年前から鮭の稚魚飼育にも使い、子ども達の大事な教育活動の源ともなっています。この「泉」は更に、学校裁量の「いずみの時間」として「学校いずみ」「学年いずみ」「学級いずみ」の三本立てで、児童の主体的な発想と工夫によって、楽しく活動しています。（今泉）



# 教育実践 子ども願 一日頃の実践



## 一人ひとりを生かす題材の選定と指導のあり方

○おにぎり作りを通して○

—家庭科研究委員会— 牧 千恵子

子どもが粘り強く自己形成していくために、本年技術・家庭科委員会では、粘り強く追求していくに足りうる題材、時代の進歩や、生活環境の変化の中で、原体験の少なくなって来ている子供たちに、魅力があり、その上価値の高い題材、そして一人ひとりを生かすことのできるものをも考えてみることにしました。

第一回研究会では森上小学校六年生で、「おにぎり」を題材に、授業をしくんでいただきました。

おいしいおにぎりを作るには、どのくらいの水加減でごはんを炊いたらよいかを調べるために、米に対する水の割合の違いはごはんを炊き、おに

ぎりを作ってみるといっても、です。水の量は三種類、したがって、おにぎりも一人三人作りしました。自分の予想をもとに、ごはんの炊き上り方を観察したり、手にごはんを取り、ぼろぼろこぼしながら、四苦八苦しなごぼした体験は忘れることなく、子どもたちのこれからの生活の中で、きつと生きていくことと思えます。

一人ひとりを生かす。それは、自分の持った課題を自分で解決しようと工夫し努力することである。と考へ研究して来たつもりですが、講師の先生から「技術・家庭科は技術面でのみ考へがちであるが技術的に不得手な子供は知識

面で生かすことも考えられる。一人ひとりとはいわゆるグループの中で支え合いながら、個が生きてくることもある。ごはん炊きの中核は何か教材研究しなければならぬ。等々も、あわせてご指導いただきました。

物を作ることは楽しいな、

## 性に関する調査所感

—保健研究委員会—

浜 和子

保健委員会では前年度に続いて「性に関する指導」をとりあげ、本年度は特に私たち養護教諭が自分自身で、または担任が行う性指導にかかわって、具体的に、何を、どんな場面で、どのように指導すべきかを研究しようとしています。

本年度はその手がかりとして、特に小学校六年女子及び中学二年を対象として、「性に関する調査」を実施しました。この調査結果の考察とそこからどのような指導の手がかりを得たらよいかについては、今後の委員会の課題ですが、中学生の調査結果の二三をひろってみましょう。

○問い—「性についての関心」—約60%の生徒は関心を持っていてと答えており、○問い—「性についての知識はどこから」—友人からが61%、雑誌、テレビ等のマスコミ等から約20%の情報を得ていることがわかりました。

○問い—「性に関して知っていることば」—については実際に近いことばを知っており、性行為に関することばも非常に多かったことは驚きでありました。

○問い—「性についてのイメージ」—30%強の生徒は、いやらしい、はずかしい、エッチだという感じで受けとめており、性を大切なこと、美しくきれいなことと受けとめている生徒は45%程度でした。

一対一の中学生の男女交際について約60%の生徒が賛成している実態のなかで、心も体も未発達な生徒たちに、これからどのような指導をすべきか真剣に考えていかねばならないと思います。性指導の問題は単に私たちだけでできることではなく、児童生徒の健全育成の立場からも学校、学年の先生方にご協力をいただかねばならないと思います。そのためにも、本調査を充分生かしたいと思っています。

(栗が丘小)

## 子供の笑顔と確かな力を求めて

—合科総合的学習委員会—

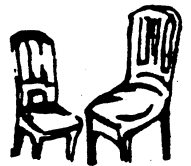
北島 秀樹

第一回は、小山小学校の二年生が「ありさん」という題材の中で、理科的な追究や国語の表現、楽しい絵画をしつつ、ありさんになって遊ぶ授業を、土屋先生と共にされた。

わとりって、まぶたが下から上がってくるね。」と大発見。確かに、ジツとしていたわとりたちは、そうしていた。遊びの中に、創造性も、協力も、親愛感、表現力も、巧みに子どもたちは育てていると思われた。

郡の合科総合的学習研究委員会は、本年度、二十名の委員で研究を進めている。テーマは「ひとりひとりの子どもたちが、喜びをもって学習を創り出してゆく指導法はどうあればよいだろうか。」であり、子どもたちの遊びを軸にした活動の中で、どのような力を内に育てるのかを、現在、追求しようとしている。

# 火鉢後



上高井に来て、早くも半年が過ぎた。新しい地に来て、新しい生徒達に出会い、試行錯誤の毎日である。やっと二学期になり、落ち着いてきたところだろうか。

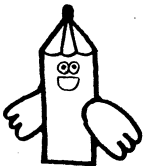
その二学期も始まり、一カ月程した頃、校内バレーボールクラスマッチが行われた。各学年とも熱戦が繰り広げ

## 最近思うこと

越 徳 子

られた。普段見えない生徒の一面が見え、私は感心しながらながめていた。いつもは強情なのに、ミスをするとき「わるい」と言って謝るM君。「どんまい」と明るく返すK君。真剣な表情でサーブするMさん。その姿は、飾りも照れもない生の姿だと思った。これだけのものを持つてい

る生徒達の良さを、音楽の授業の中でも引き出せないか、と考えた。支え合い、協力、全力投球…。東祭の合唱コンクールに向け、各クラスとも自由曲と課題曲に取り組んでいるが、その練習の過程でこれらの事を大事にして、クラス全員で合唱する喜びを味わってほしいと願いつつ、授業をしていく。合唱もバレーボールも一人ではできない。一人だけうまくても勝てない。全員が自分の持っている力を出し切って、さらにカバーし合うことが大事だと思う。



そんな事を授業で生徒達に語りかけながら合唱を創っていくのだが、なかなか本気になつて歌えない生徒が多い。そんな時「自分のためにうたがあるとき」(柳生 力著)という本を知った。やはり一人一人にとつて「やりたい」と思うことがなければ、「やらされてる」だけになつてしまふのだから。「歌うっていいな。」音楽っていいものだなあ。」と思える生徒に育てていきたいと思う。それがきつと心の栄養になるものだと思うから。(東中)

## M君がんばれ

綿 田 虎 男

中間休みの前日教室で仕事をしているM君が息を切らせてかけ込んで来た。先生、カニの水がなくなっているんだ。水を入れてやらないうと死んでしまう。そうやってバケツを持って水道へかかっていた。カニの水をどう見ると、なるほど水は一滴もなくなっている。このまま休みになつたら…：家へ帰って心配になつてあわてて来たのだという。このM君、動物には興味を示し野原や川へ行つていろいろなものをつかまえてはくるが、なかなか世話が出来なかつた。また力が強くいっしょに帰宅する友だちをいじめた



り仲間はずれにするなどのことがしばしばあり、とかく友だちからいやがられる存在であった。M君は希望してクラスの飼育係になつたのであるが、思うように係の仕事が出来ず反省会にもしつかりやるように毎日のように意見が出された。M君はいつこに良くならなかつたのだが、ある日何を思ったのか、放課後おそくまでかかつていぬいに水そうのそうじをした。次の日「わあ、気持ちがいい。M君一人でやつたのか。すごいなあ。」とクラスの友だちからほめられ認められた。その日を境に係の仕事を手伝うようになり、M君も本気で生き物の世話をしようになり、友だちを大事にしはじめてきたように思われる。(森上小)

## 運動会について思うこと

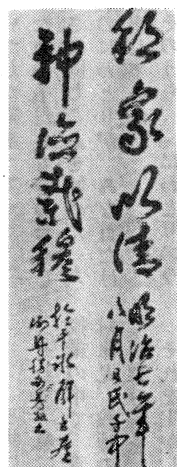
北 原 讓 二

例年、九月末には、学校の一大行事である運動会が開催されていますが、今まで何回かの運動会を経験してきて思うことがあります。それは、運動会が本当

に子供の側に立つたものになつていないかどうかということです。例えば、運動会の華といわれるリレーについては、ほとんどの学校では、低学年も高学年もバトンを使用し、トラックで行つていると思いま

## 郷土の文化財(75) 勝海舟揮毫の幟(原本)

小布施町飯田 郷元神社



小布施町飯田郷元神社の幟(五反)の原本は、江戸幕府の役人であった勝海舟の書である。

明治の初め、飯田郷元神社の氏子が幟の字を高井鴻山にたのみました。鴻山は親交のあった海舟を紹介して書いてもらったものである。

この原本は、内山紙百六十枚をはり合わせたもので、長

さが十三メートル三五、幅一枚には「邦家以清 明治七年八月日氏子中」、もう一枚には「神徳載種 海舟勝安芳拜書」とたくましく書かれています。原本は飯田自治会に所蔵し、昭和六十年二月に小布施町の町宝に指定された。(市川)

## 編後記

では、このような形態はとっていないはず。他の個人種目、団体種目についても、夏休み明け直後から取りかかる忙しさから、十分に検討されないままに決定してしまうくらいもあるように思います。児童の能力や欲求、体育教科からみた運動の価値、運動会のねらい等の面から考えて、本当に適当なものであるか考える必要があるように思います。応援団組織による応援合戦等は、「運動会への主体的参加」に有効かと思えます。原点に戻つて運動会を見直したいものです。(高山小)

澄みわたつた空に紅葉が映え、美しい季節となりました。本号は、研究委員会中間総括特集をお届けします。何かとお忙しい中、ご寄稿下さった先生方に、心より御礼申し上げます。研究委員会での研究を通して私共は子ども達と共に、ひとつでも実りのある実践をめざして、日々励んでいきたいものです。春にまた種が、秋になつて、実るように…。(市川・望月)